



おりこう
折高だより 令和6年度第3号
福岡県立折尾高等学校

令和6年5月16日
校長 浪崎 陽一

おりこう3C Week校長挨拶 「自分の可能性に蓋をするな」①

先月、本校の特色ある行事として1年生を対象に「おりこう3C Week」を実施しました。そのプログラムのひとつに校長挨拶があり、1年生向けに話をしました。この挨拶の内容は2・3年生にも伝えたいことでしたので、折高だよりに掲載します。少し長いので2回に分けて掲載します。

「自分の可能性に蓋をするな」①

1年生の皆さん、おはようございます。いよいよ「おりこう3C Week」が始まりました。この3CとはCreation、Challenge、Collaborationの頭文字をとって名付けたものです。まず、Creationとは新たな価値を創造することですね。Challengeは挑戦すること、Collaborationは様々な人々と協力して物事を行うことです。

入学式で私がした式辞の内容を覚えている人はいますか。緊張していてあまり頭に残ってないと思いますが、その中で「自らが自らの意思で行動することが大切です」と言いました。「失敗を恐れずに何事にも果敢にチャレンジしてください」とも言いました。3CのうちのひとつChallengeですよ。

そこで今日はひとつだけ話をしたいと思います。これまで自分が教壇に立っていた時は必ず話していたことですけれども、ぜひ皆さんにも聞いて欲しいと思っている話です。ノミの話です。猫や犬等について血を吸う小さな生き物ですね。とても興味深いノミの跳躍力に関する実験があります。

ノミは体長2mm程の小さな虫ですが、跳躍力が優れていて、その体長の実に150倍もジャンプができるといわれています。これは人間に例えると、30階建てのビルを飛び越えることになります。オリンピックでも跳躍種目で余裕で金メダルが取れますよね。このノミをビーカーの中に入れてもすぐに全てのノミが外に飛び出してしまう。

しかし、ビーカーの上にガラスの蓋をすると、ノミはコツコツと頭をぶつけることになり、最後には諦めてしまうそうです。これをしばらくの間続けていると、仮にその後ガラスの蓋を取り除いてもノミは一匹たりとも外に飛び出そうとはせず、中でピョンピョン小さく跳ぶだけになってしまいます。

つまり、ノミには「自分はビーカーから外へは出られない」という固定観念ができ上がってしまい、高くは跳べなくなる、という話です。自分にはできないと思い込んでしまう、ということです。要するにノミは心理的限界を自分で作ってしまうことになるわけです。



～ ②に続く～